

house HYS

設計:杉浦事務所

現代のマイクロコスモス

杉浦宏幸 | Hiroyuki Sugiura

大きな河が蛇行する平野の中の、小山のような丘陵の頂にこの敷地はある。縄文時代から集落のあったこの地に遙か太古を感じつつ、現代の空間を構築したいと考えた。法規上、限られた床面積(約90m²)の中で、生活を支え、かつ彩る多くの場をつくること。特別な眺望は期待できないが、採光や通風にメリハリのある効果的な開口を設けること。すでに所有している家具を有効に活用することなどを設計のスタートとした。全体は単純な箱状空間の組み合わせで出来ている。大きくは主室と副室と個室の3つの性格の異なる空間で構成され、特に2階を南北に貫く副室は“動線体”として、室内環境(採光や通風)の“調整体”として、さらに個室

でも主室でもない中間的な“機能体”として、家全体を統合する空間として位置づけられている。

副室の南端は洗面スペースで、比較的眺望の良い南方向(隣地アパートの駐車場とその先は道路が延びる)を望みながら歯磨きができる。その上部のロフトは家族全員の書斎として使われる。副室の奥には家具が並べられ、より私的なパブリックスペースとなるよう計画した。また床の一部をエキスパンドメタルとし、この面を通して主室へと光と風が導かれる。副室の真ん中に隣接する天井高さ3.6mのトイレにあるハイサイドライトが天空へと抜け、家全体を上下に貫いている(トイレの扉は使用中のみ閉じられる、という前提で計画。そのためトイレには鍵はない。つまり「SATIS」を始めとしたトイレ空間は、副室のインテリアを構成する一部である)。

副室と上下に密接に関係する主室は、縦穴式住居のように下方に少し掘り下げられ、より大きな気積を得ている。敷地南東隅の小さな庭にあるツバキ(既存)を鑑賞するための

大きな開口と、他の補助的な開口や副室、あるいはバスルームとの連動により、主室全体にさまざまな不均質な光が導かれ、風が抜けていくような場としたかった。

また主室中央にコアを設定し、回遊性のある構成としている。コアを挟んで、かたやキッチンスペース、かたや土間的な玄関がある。床仕上げはラワン合板が主だが、その他、エキスパンドメタル、モルタル、「サーモタイル」の4種で、足裏から空間を分節している。以上のようにこの住宅では、さまざまな水準のモノラル(縦穴式住居的な単純性)な構成を重層することにより、現代的なマイクロコスモスの在り方を模索した。

すぎうら・ひろゆき——建築家/1962年生まれ。1985年、横浜国立大学工学部建築学科卒業。1987年、東京工業大学大学院修士課程修了。1987-97年、竹中工務店。UPM、Power Unit Studioを経て、1998年、杉浦事務所設立。現在、ICSカレッジオブアーツ非常勤講師。
主な作品:house H[2002]、complex J[2004]、house Kf[2005]、house G[2008]など。

1——東面全景 | 2——主室から見る | 3——副室を見る:階段の上はロフト | 4——洗面・浴室 | 5——2階トイレ | 6——玄関から見る



1階平面図 1/250

2階平面図 1/250

ロフト階平面図 1/250

A-A' 断面図 1/250

建築概要
 名称:house HYS | 所在地:神奈川県横浜市 | 家族構成:夫婦+子供2人 | 敷地面積:112.58㎡ | 建築面積:44.98㎡ |
 延床面積:89.96㎡ | 規模:地上2階 | 構造:木造 | 工期:2007.7-2009.1 | 設計:杉浦事務所 | 施工:一吉建設
 ●INAX使用商品 | キッチン | キッチン用水栓金具:SF-E546S、浄水器用水栓:KS-403XU(JW) || 浴室・洗面室・トイレ
 | 床タイル:サーモタイル IFT-300 / PU-21, PU-31、壁タイル:インテリアモザイク ニュアンス IM-25P1 / NY1、浴槽:グラス
 ティン浴槽 ABN-1400 / W91、シャワーバス水栓:BF-J146T、便器:サティス D-314GSU / BW1 || 玄関・主室など | 壁:
 スリカラット パウダー1

